

熊本県内経済情勢報告

令和5年10月

財務省九州財務局



(問い合わせ先)
財務省九州財務局経済調査課
TEL 096-353-6351 (代表)
096-353-6354 (夜間直通)

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、経済活動の正常化の動きが続いていることから、緩やかに回復している。生産活動は、高水準を維持しているものの、海外経済の減速などの影響から一部に弱さがみられており、このところ横ばいの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	緩やかに回復している	→
生産活動	拡大の動きに一服感がみられる	高水準を維持しているものの一部に弱さがみられており、このところ横ばいの状況にある	↔
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→

設備投資	5年度は減少見込み	5年度は減少見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は減益見込み	↔
住宅建設	持ち直している	持ち直している	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響もみられるものの、外出機会の増加により衣料品や身の回り品が好調なことから、緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺や繁華街の店舗を中心に好調である。ドラッグストア販売は、食料品や化粧品を中心に好調である。ホームセンター販売は、日用品などの動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品の需要が引き続き堅調であるものの、弱い動きとなっている。乗用車の新車販売は、持ち直している。宿泊は、旅行需要の改善により国内・海外客ともに増加傾向にあることから、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- 新型コロナの5類移行後は家族三代での来店も増えており、子供服の売れ行きが良い。インバウンド客が増加しているため、円安の影響も受けて高額品が好調で宝飾品やブランド品が売れている。熊本ー台北線の定期便就航の影響もあるとみている。(百貨店・スーパー)
- 総菜はコロナ禍から引き続き好調を維持しており、特に帰省需要からお盆の時期は弁当や焼き鳥、オードブルなどのパーティーメニューの売れ行きが良かった。(百貨店・スーパー)
- 客足・客単価は前年を上回っているものの、買物点数は減っており、物価上昇の影響がみられる。猛暑の影響から野菜は価格上昇が続いているため、価格が変動しないカット済み野菜などがよく売れている。(百貨店・スーパー)
- 今年は祭りなどのイベントが通常開催されていることもあり、観光地周辺の店舗などで客足が増加し好調。(コンビニエンスストア)
- 猛暑の影響もありエアコンをはじめとした季節家電の需要は堅調であるものの、来店客数は減少している。(家電大型専門店)
- TSMCの進出に伴い熊本市内の宿泊需要は高止まりしており、逼迫した状況が続いている。インバウンドは、台湾からの旅行者を中心に好調であり、11月からは熊本ー香港間の定期便が再開することから、今後も増加が見込まれる。(公的機関)
- TSMC関連と思われる関東・関西方面からの宿泊者も一定数おり、1か月以上長期滞在するケースもみられる。(宿泊施設)
- 二次会以降の需要はまだ戻っておらず、5類移行直後と比較すると足下の状況は伸び悩んでいる。要因としては、生活様式の変化に加え、人手不足によりタクシー台数が減少しており、帰りのタクシーを捕まえられないことから、早めに切り上げ公共交通機関で帰宅する動きが広がっていることも挙げられる。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「高水準を維持しているものの一部に弱さがみられており、このところ横ばいの状況にある」

食料品等は、外食向け需要の増加などにより、持ち直しつつある。汎用・生産用機械、電子部品・デバイス、海外経済の減速などの影響がみられるものの、高水準を維持している。化学は、横ばいの状況にある。輸送機械は、緩やかに回復している。

- 外食産業向けは、行動制限がないこともあり、コロナ禍前の水準に戻りつつあるが、お酒の楽しみ方が変化しており、二次会需要は弱いままである。(食料品等)
- 一部で半導体需要の軟化による設備投資先送りの動きもみられるが、受注残が積み上がっておりフル生産の状態に変化はない。(汎用・生産用機械)
- 産業向けなどの需要が弱くなっており、海外経済の減速などが影響していると考えている。需要の回復時期は想定よりも後ろ倒しとなる見込み。(電子部品・デバイス)
- 部品不足が解消したためフル生産を続けており、最近では休日稼働も発生している。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。新規求人数は、前年を下回っている。

- 世界的な半導体の在庫調整の影響で、関連の製造業や労働者派遣で求人を探る動きが続く一方、新型コロナの5類移行に伴い、小売業などの求人は増加している。(公的機関)
- インバウンドの増加や TSMC 関係者の長期宿泊などにより宿泊需要は増加しているが、人手不足によりフル稼働できていない宿泊施設もみられる。(公的機関)

- 設備投資 「5年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では増加見込み、非製造業では減少見込みとなっている。
- 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 製造業では減益見込み、非製造業では増益見込みとなっている。
- 住宅建設 「持ち直している」
 - 新設住宅着工戸数(5年6~8月)をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家、分譲は前年を上回っている。

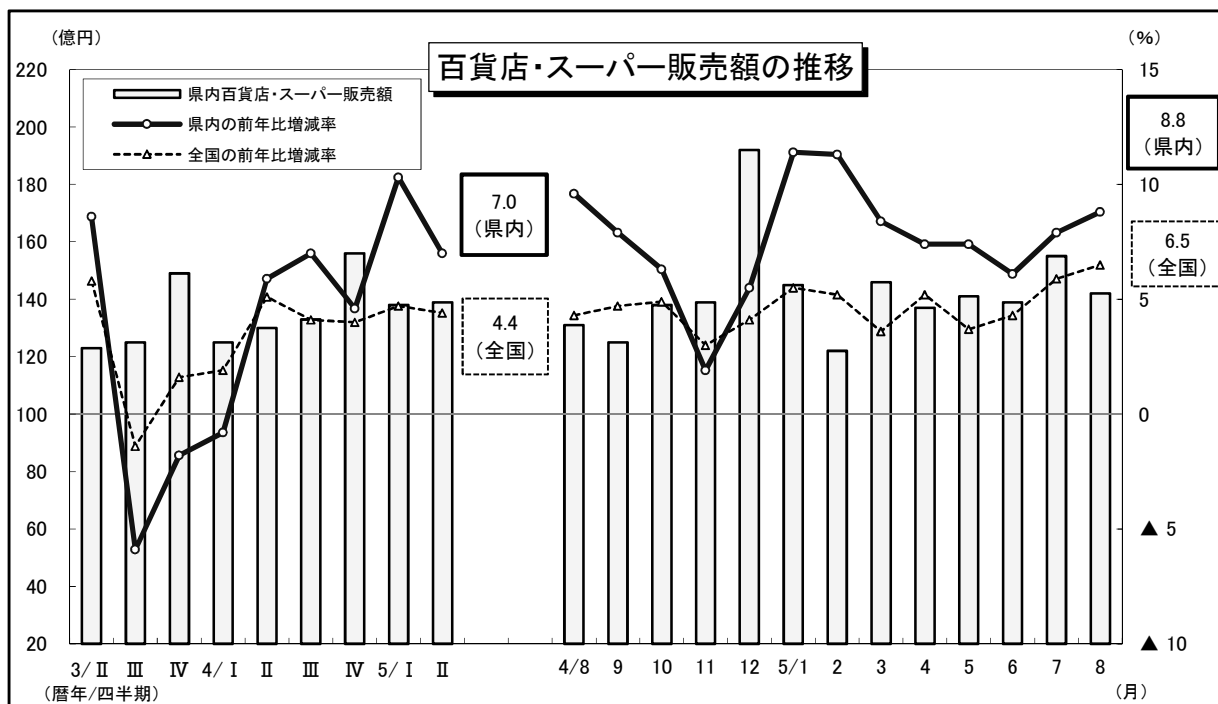
【その他の項目】

- 企業の景況感 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期
 - 5年7~9月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。
先行き(全産業)をみると、5年10~12月期は「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業
 - 公共工事請負金額(5年4~9月累計)をみると、前年度を上回っている。
- 倒産
 - 企業倒産(5年7~9月期)は、件数、負債総額ともに前年を下回っている。

【参 考 資 料】

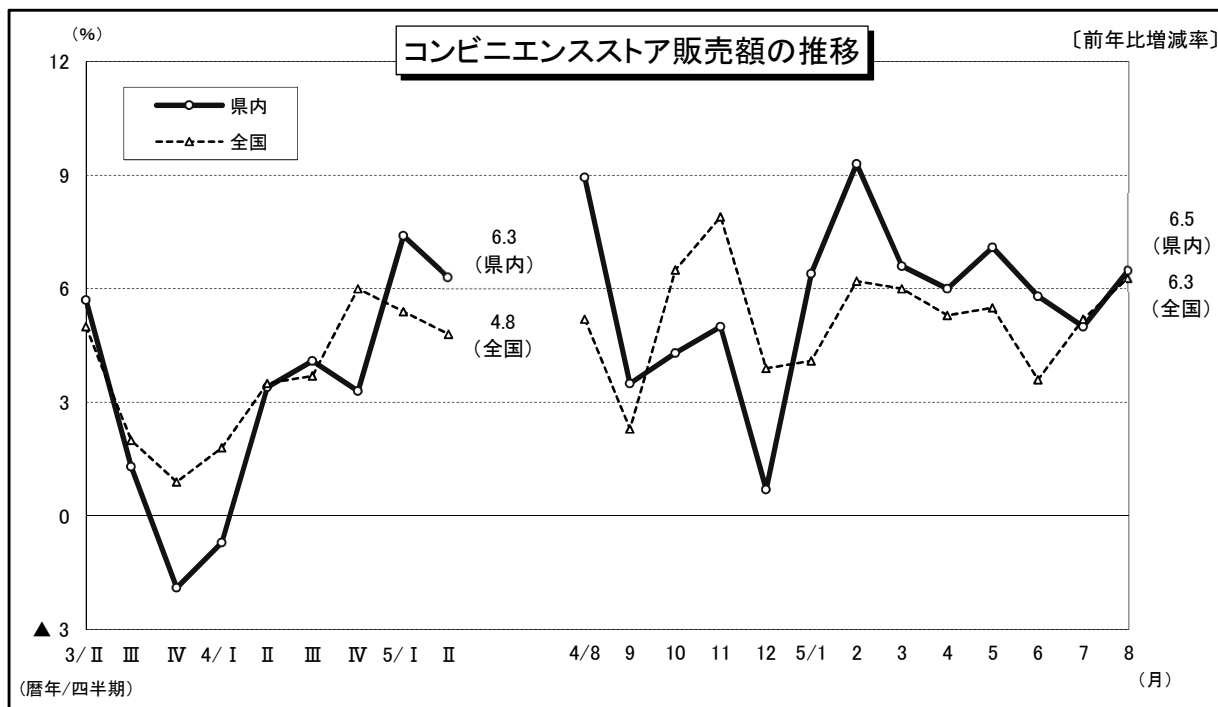
1. 個人消費	参-1
2. 生産活動	参-4
3. 雇用情勢	参-5
4. 設備投資	参-6
5. 企業収益	参-6
6. 住宅建設	参-7
7. 企業の景況感	参-8
8. 公共事業	参-9
9. 倒産	参-10

1. 個人消費



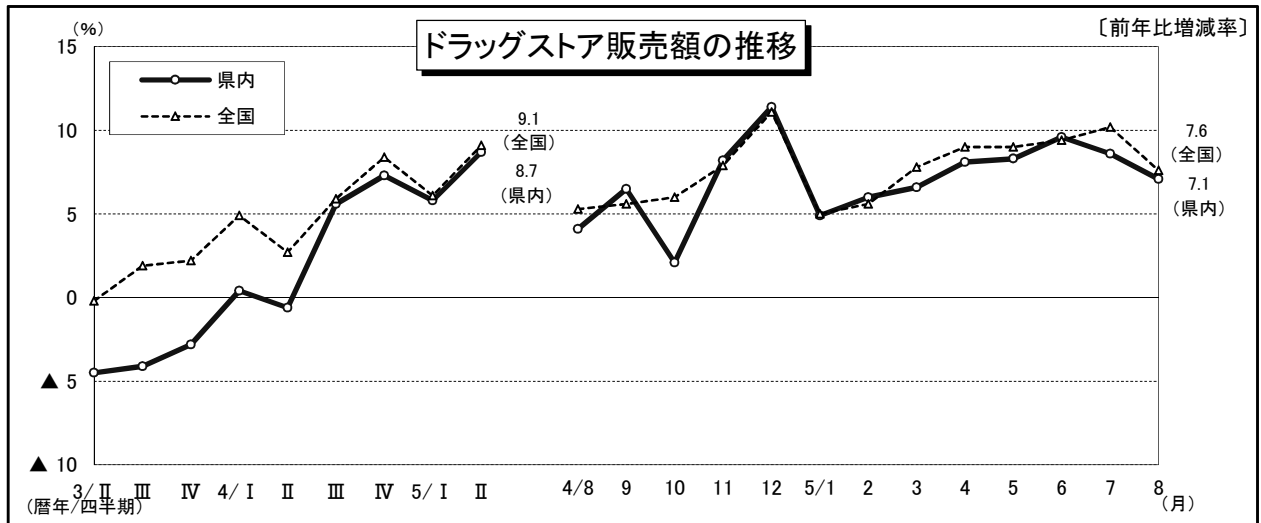
(注) 全店ベース。四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 経済産業省]



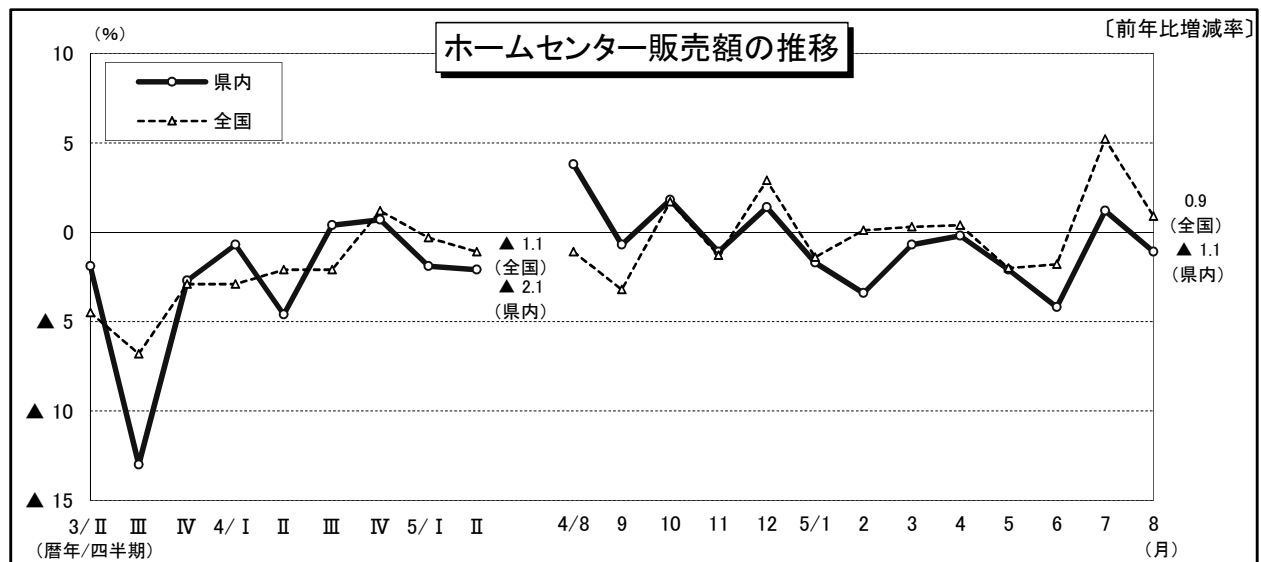
(注) 全店ベース。

[資料: 経済産業省]



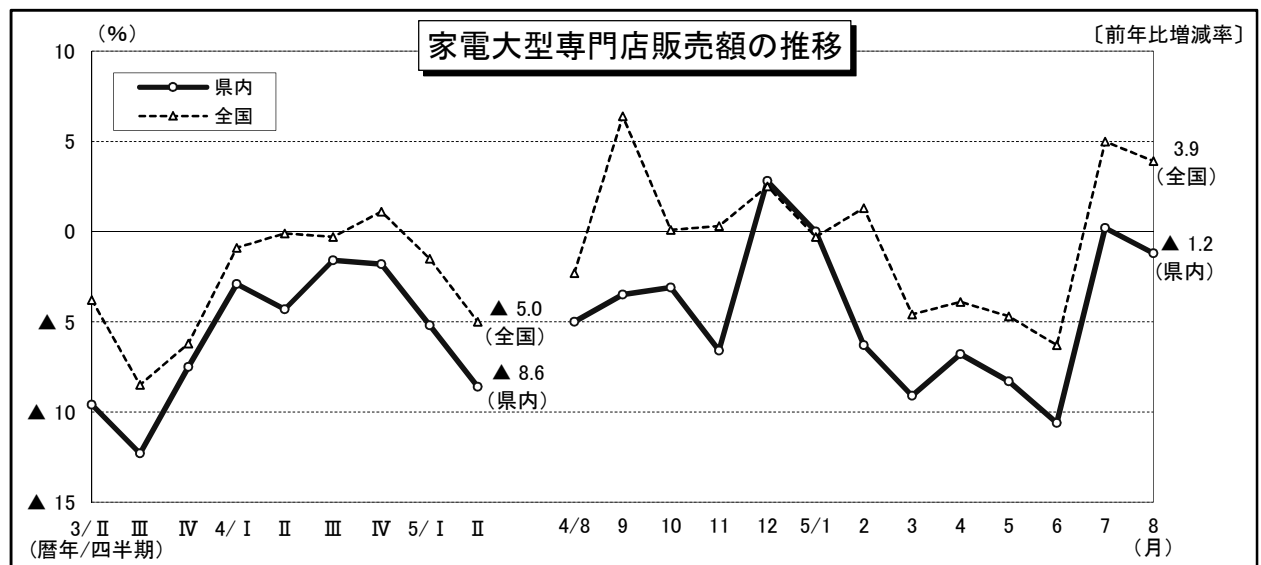
(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]



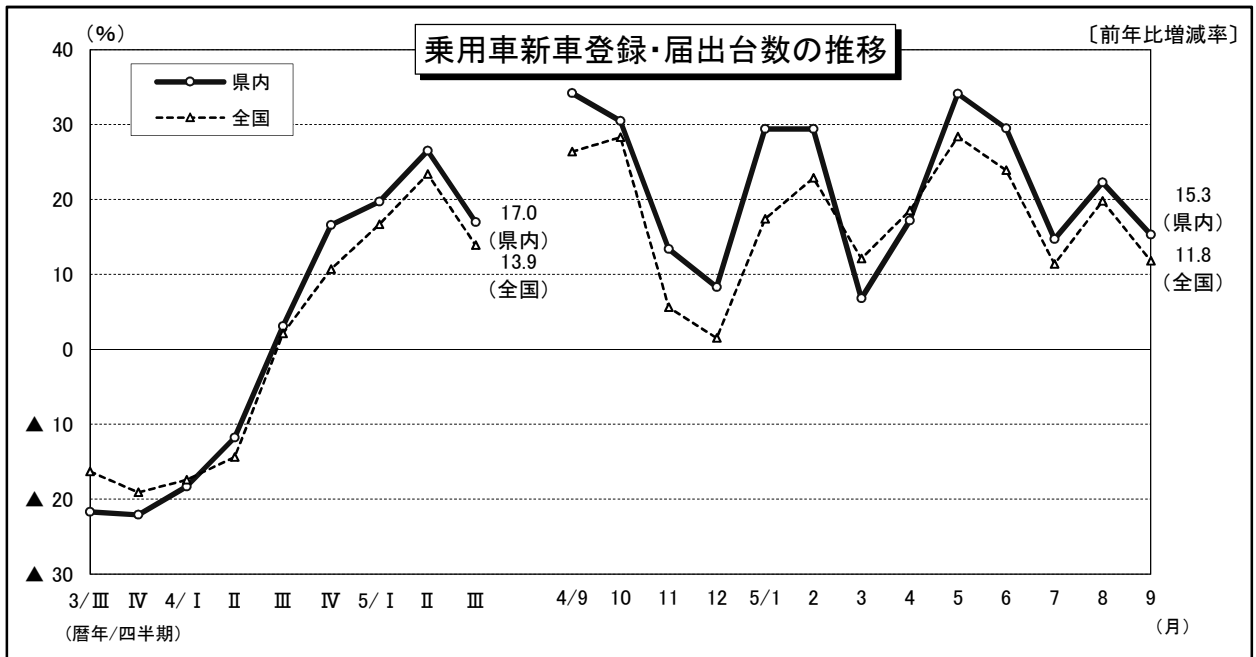
(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]

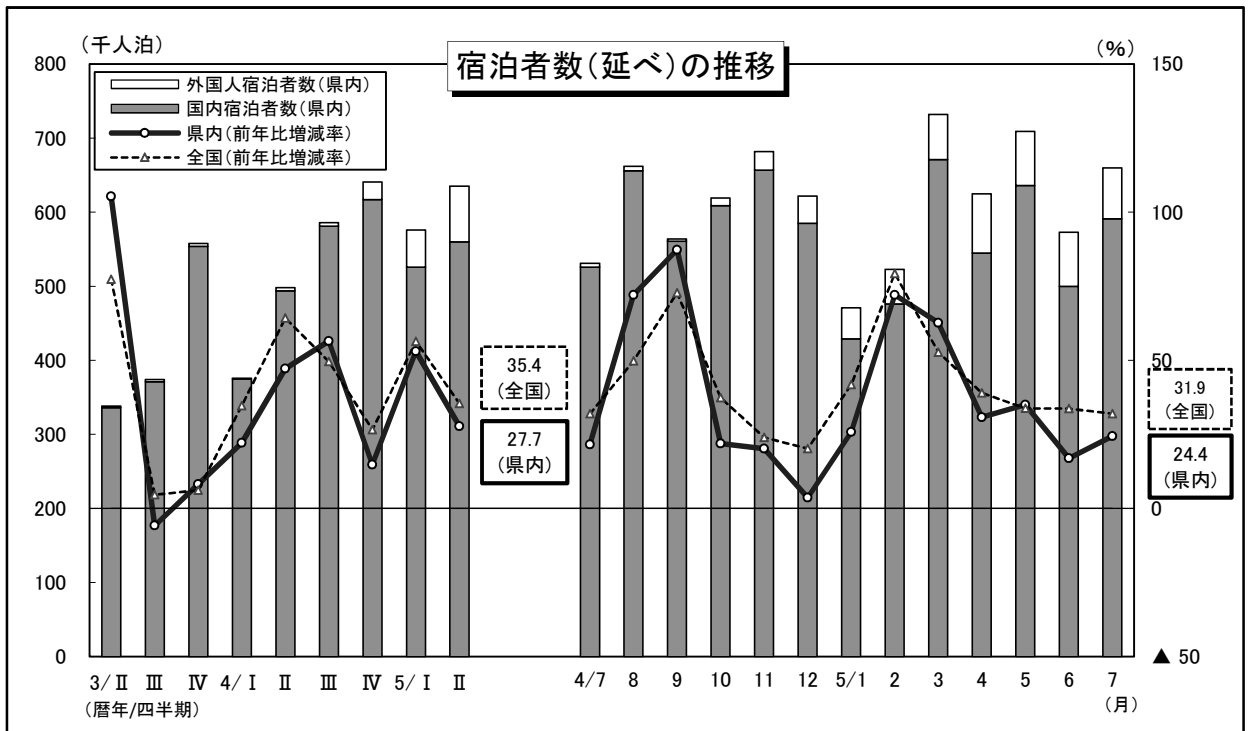


(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]



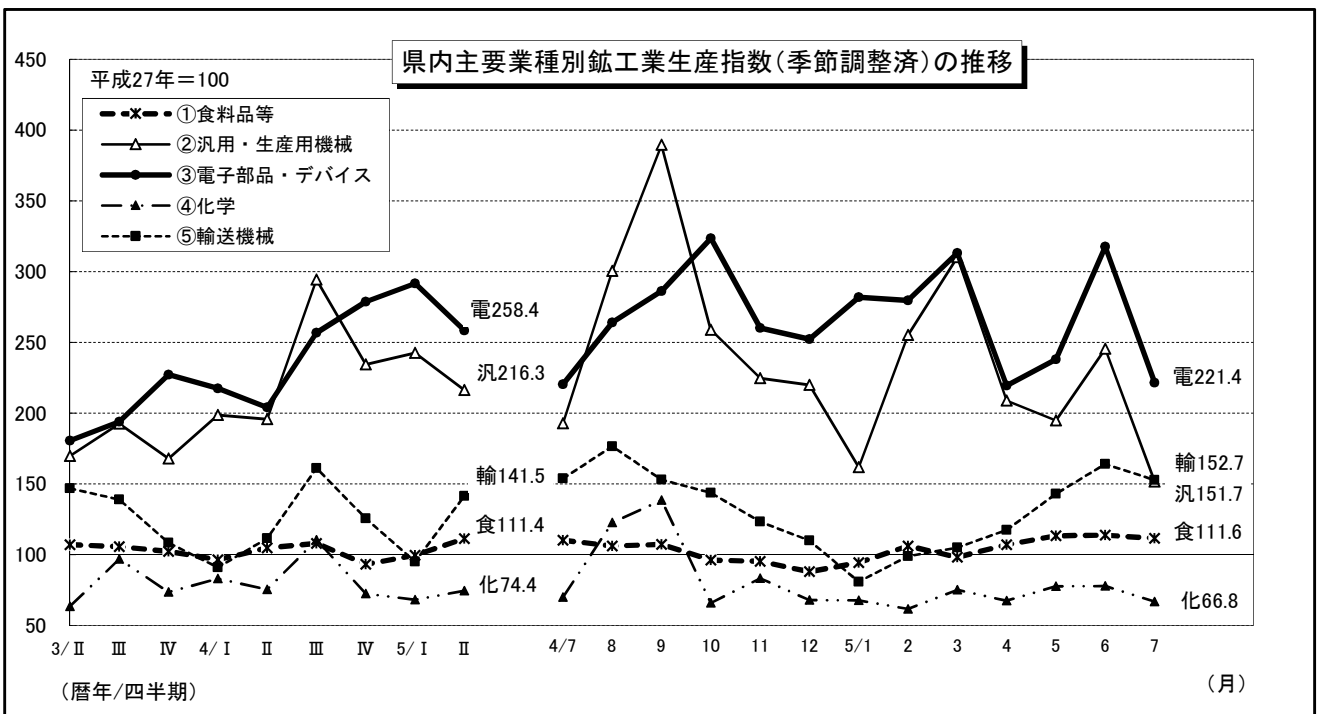
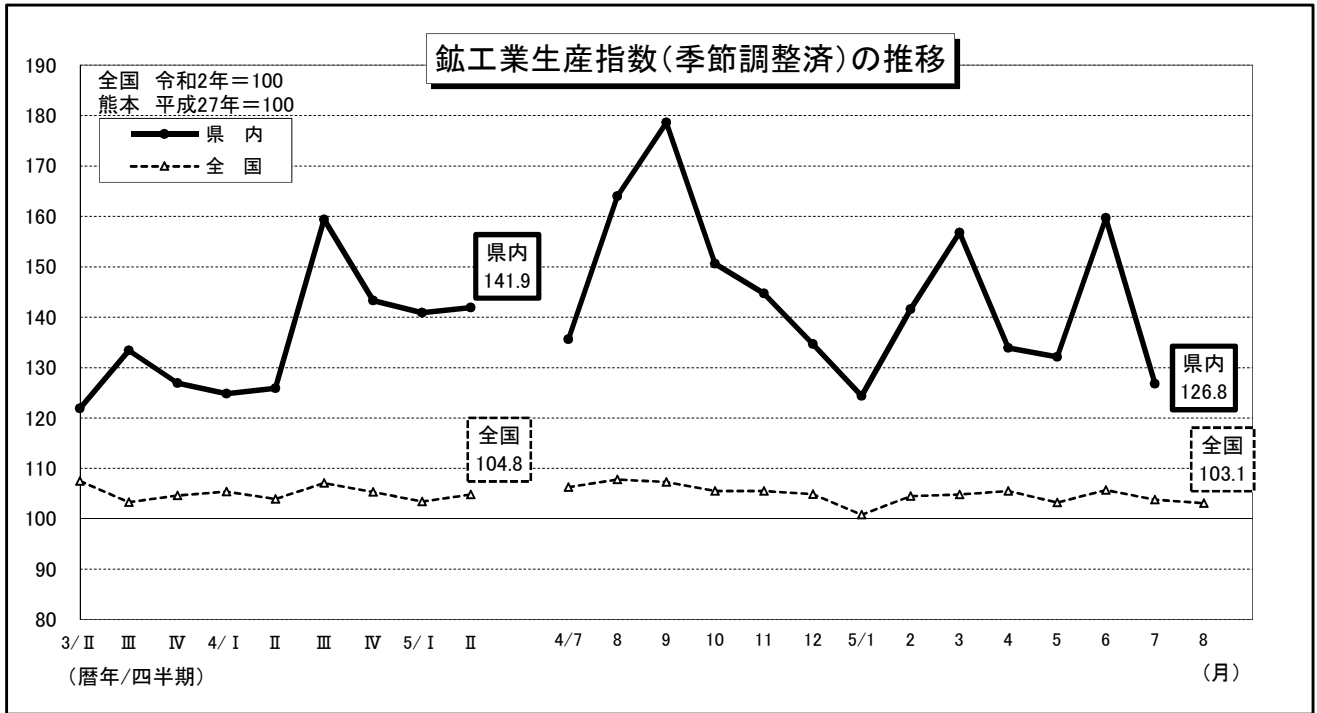
[資料: 日本自動車販売協会連合会、熊本運輸支局及び全国軽自動車協会連合会]



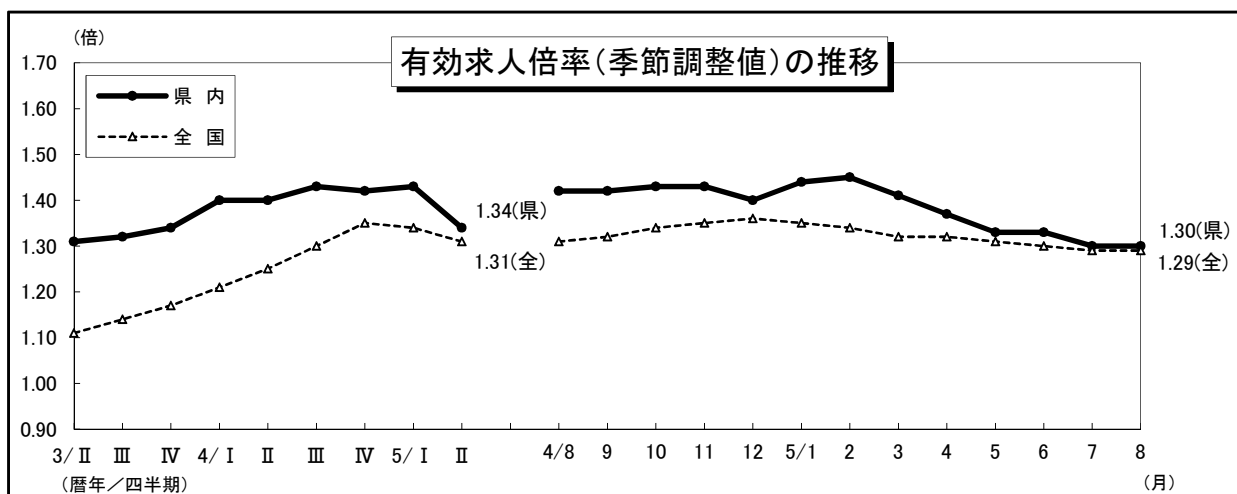
(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 観光庁]

2. 生産活動

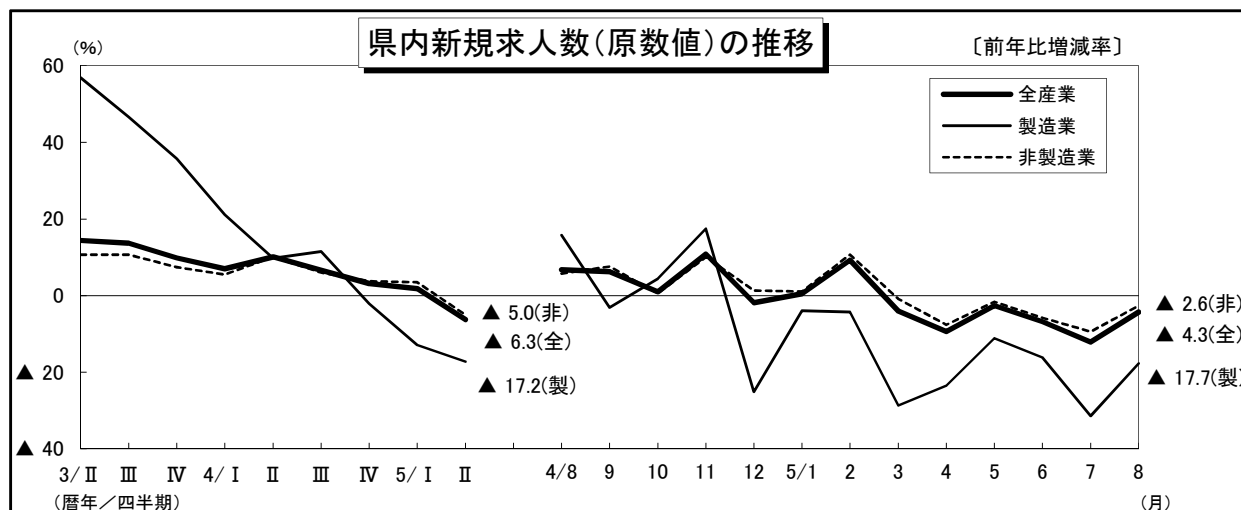


3. 雇用情勢



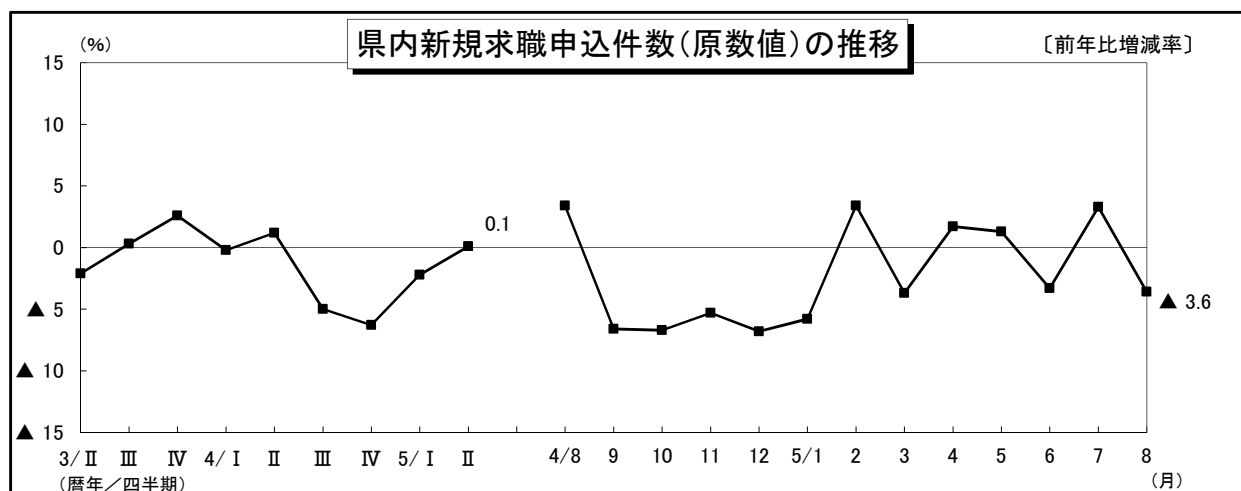
(注)パートを含む。

[資料:厚生労働省、熊本労働局]



(注)パートを含む。

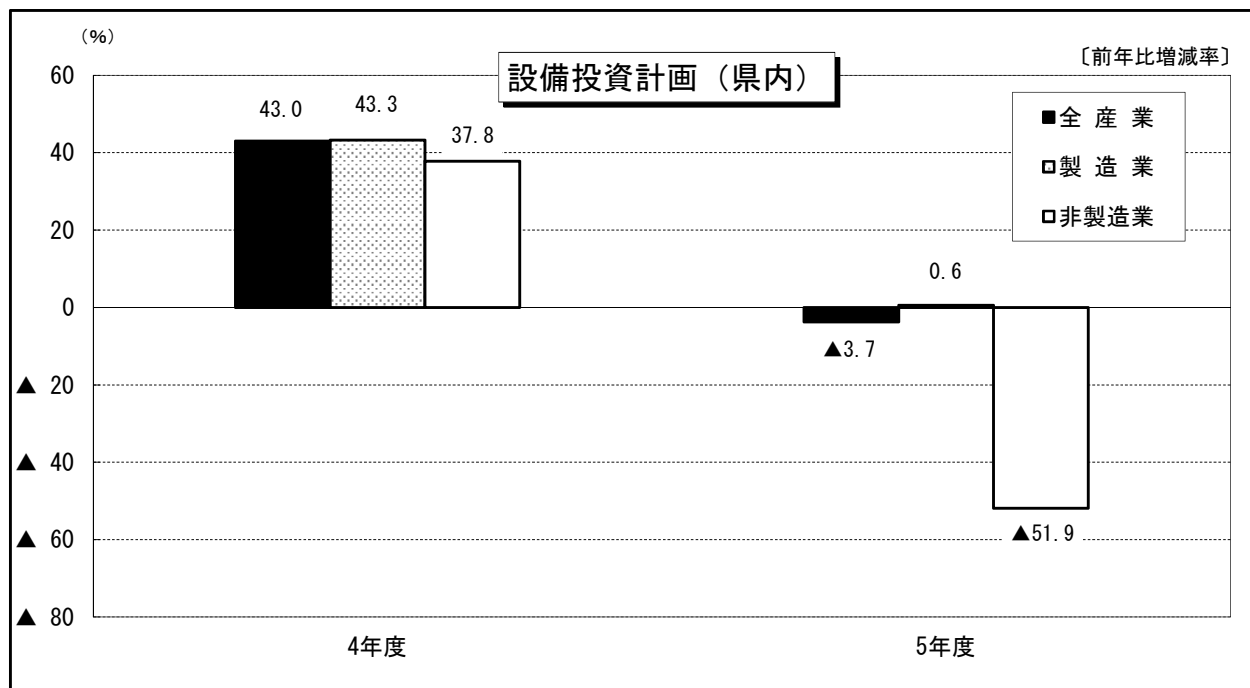
[資料:熊本労働局]



(注)パートを含む。

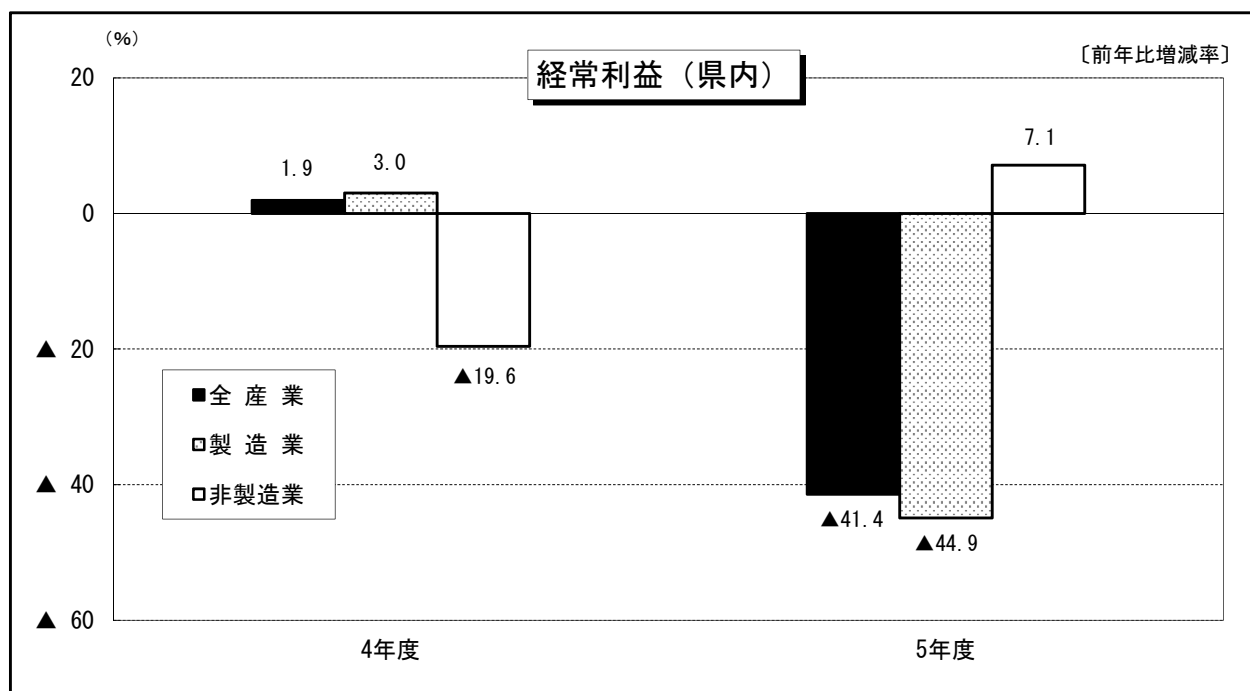
[資料:熊本労働局]

4. 設備投資



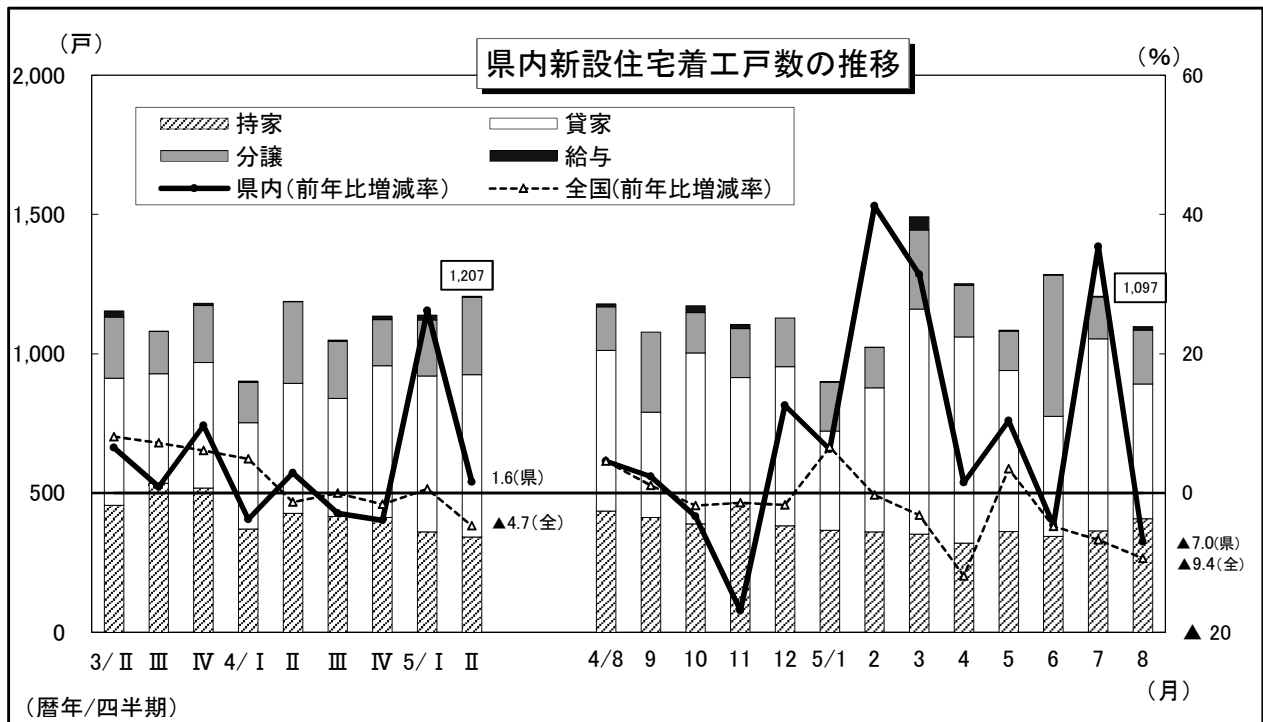
[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益



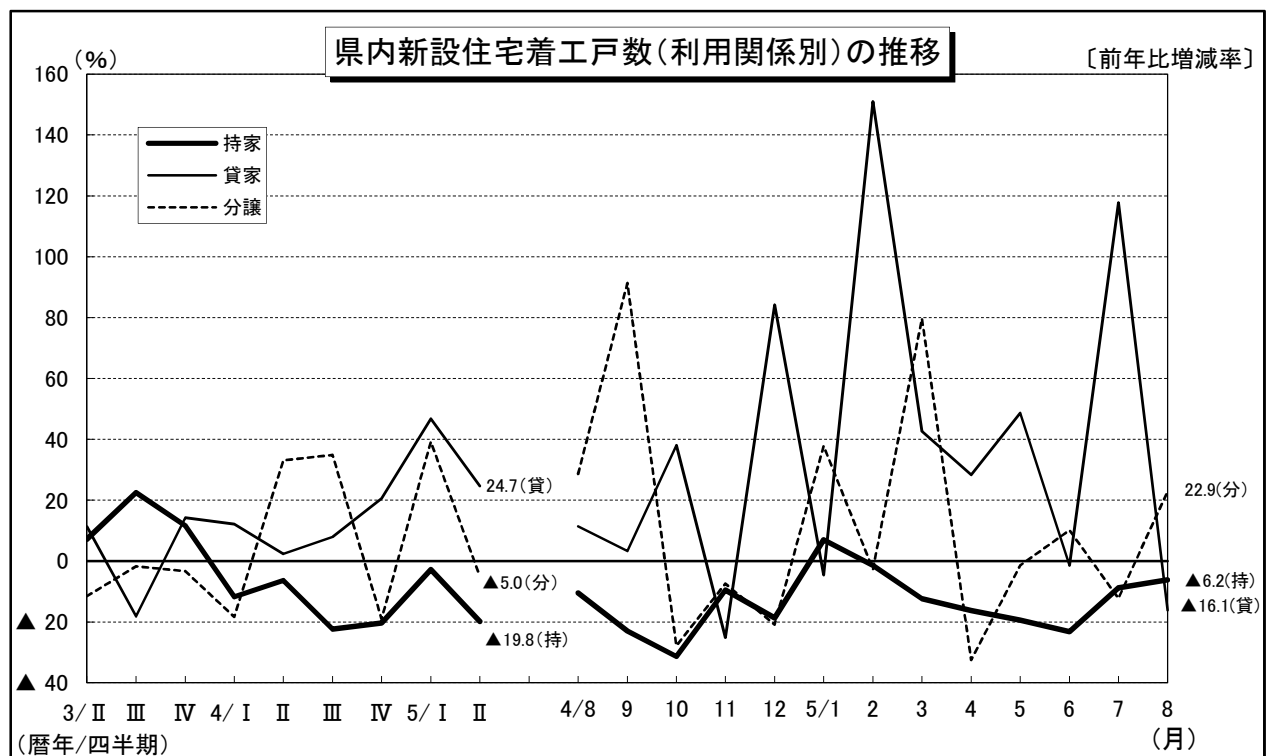
[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

6. 住宅建設



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

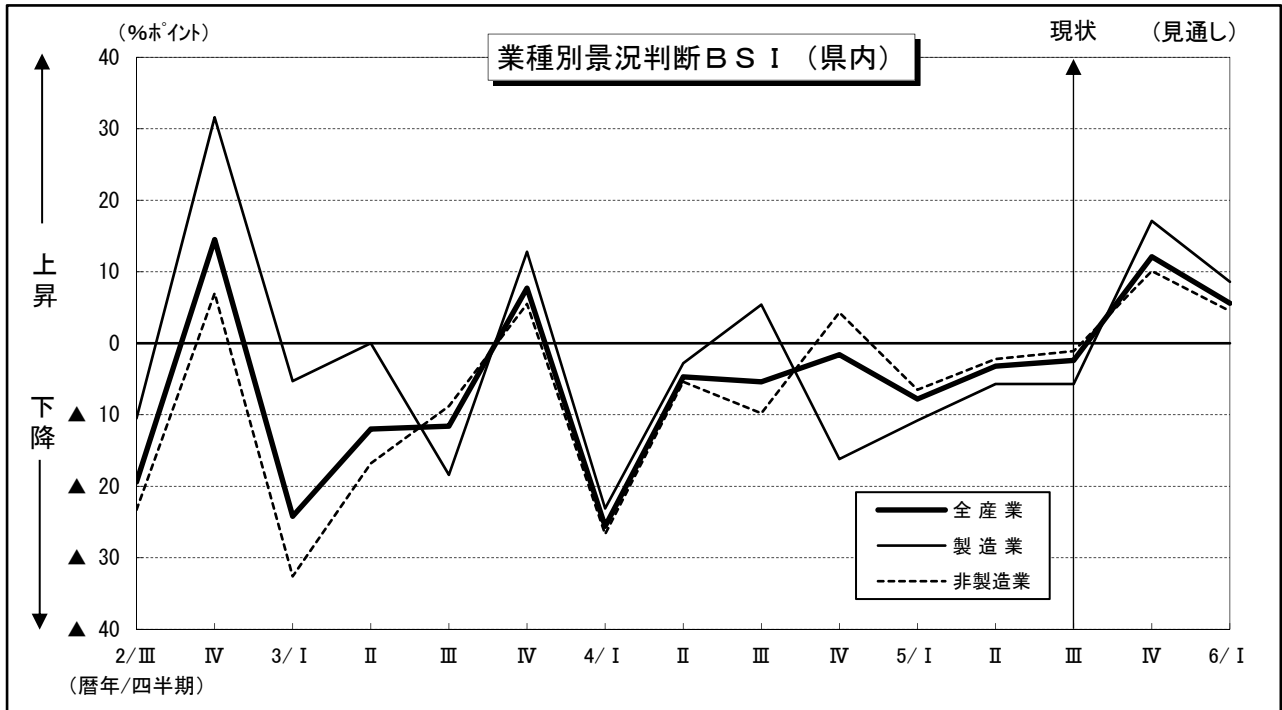
[資料: 国土交通省]



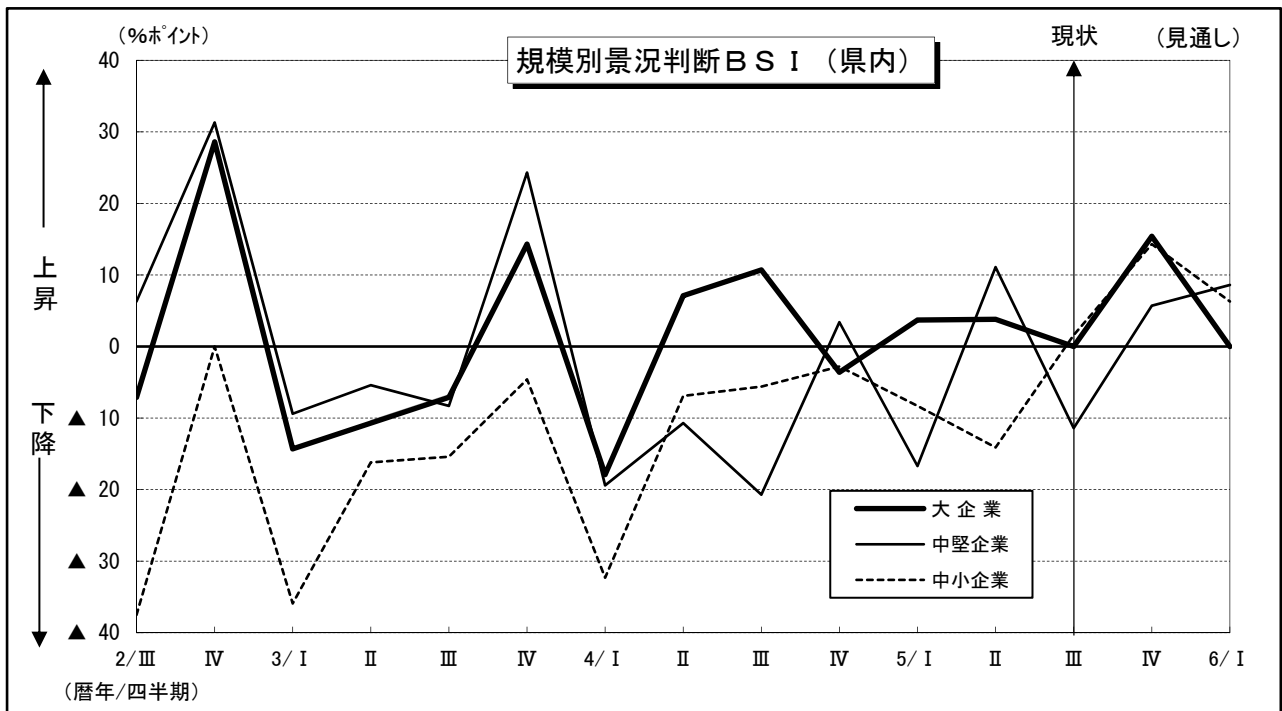
(注) 給与住宅については、些少であるため表記していない。

[資料: 国土交通省]

7. 企業の景況感

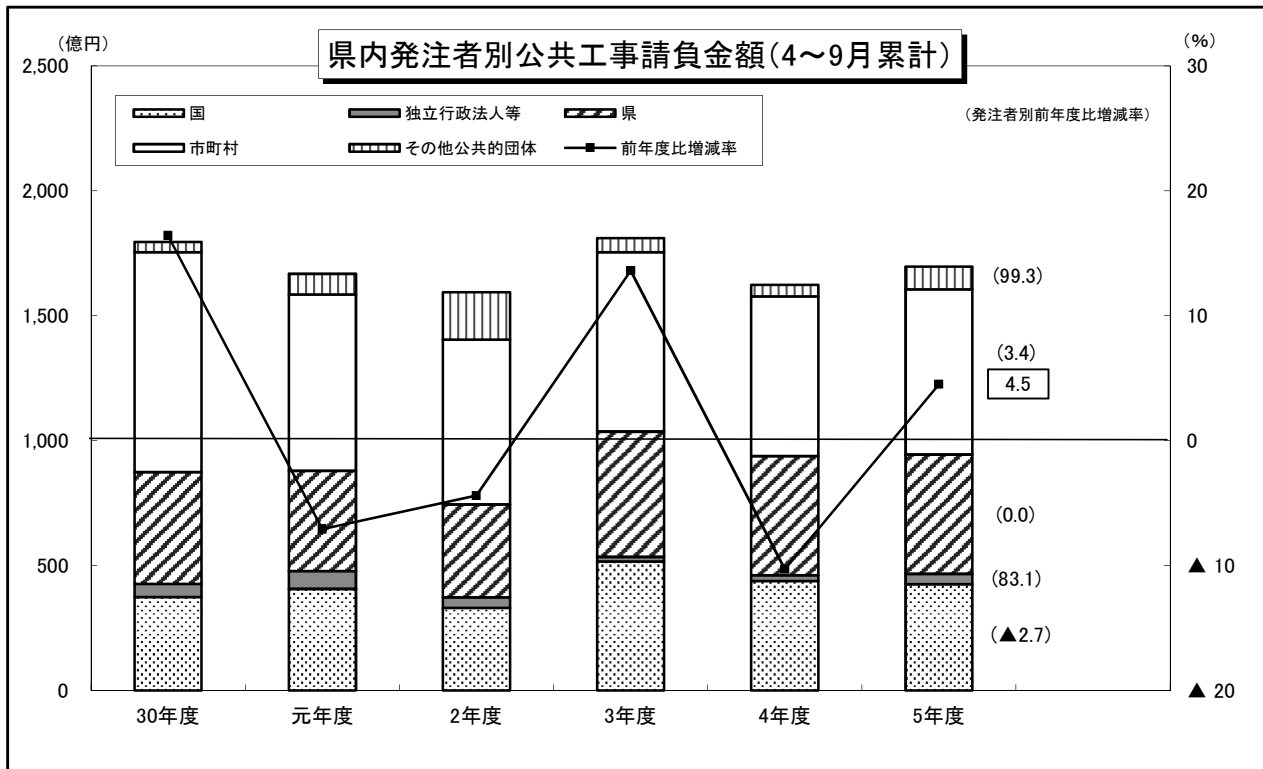


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

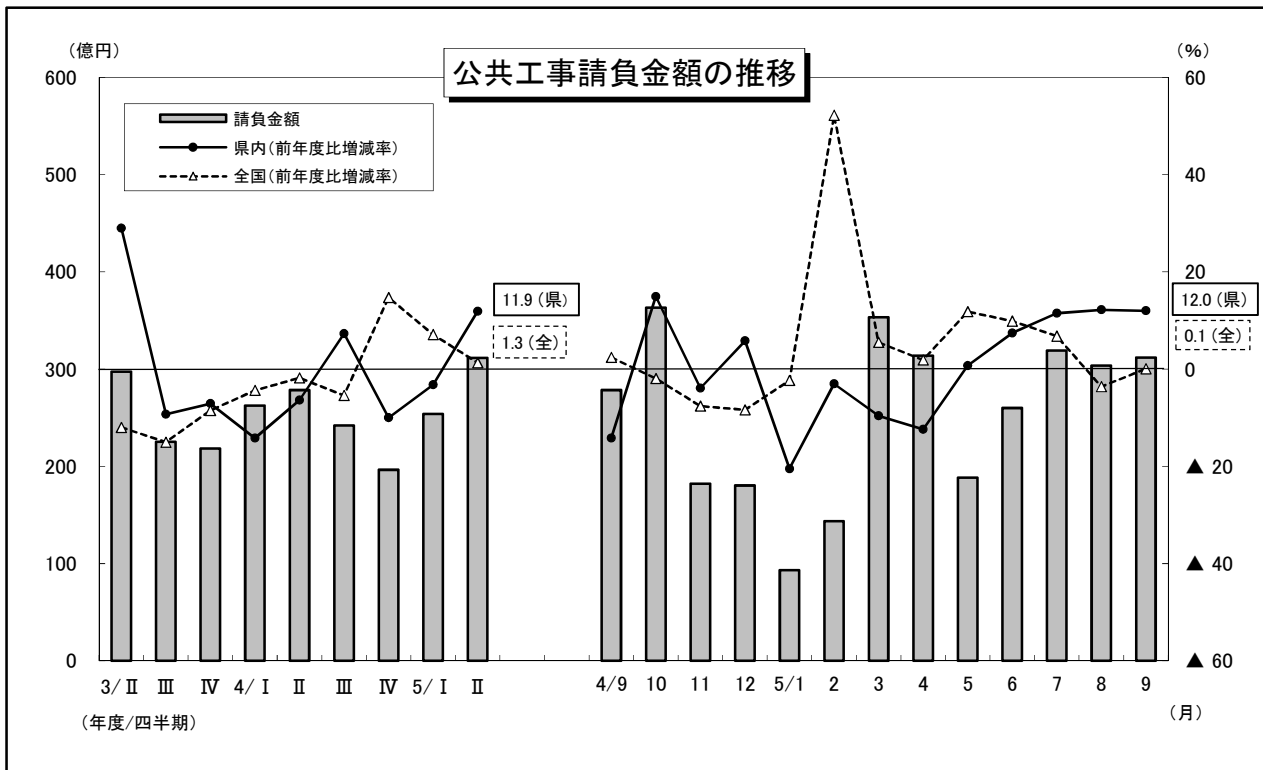


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

8. 公共事業



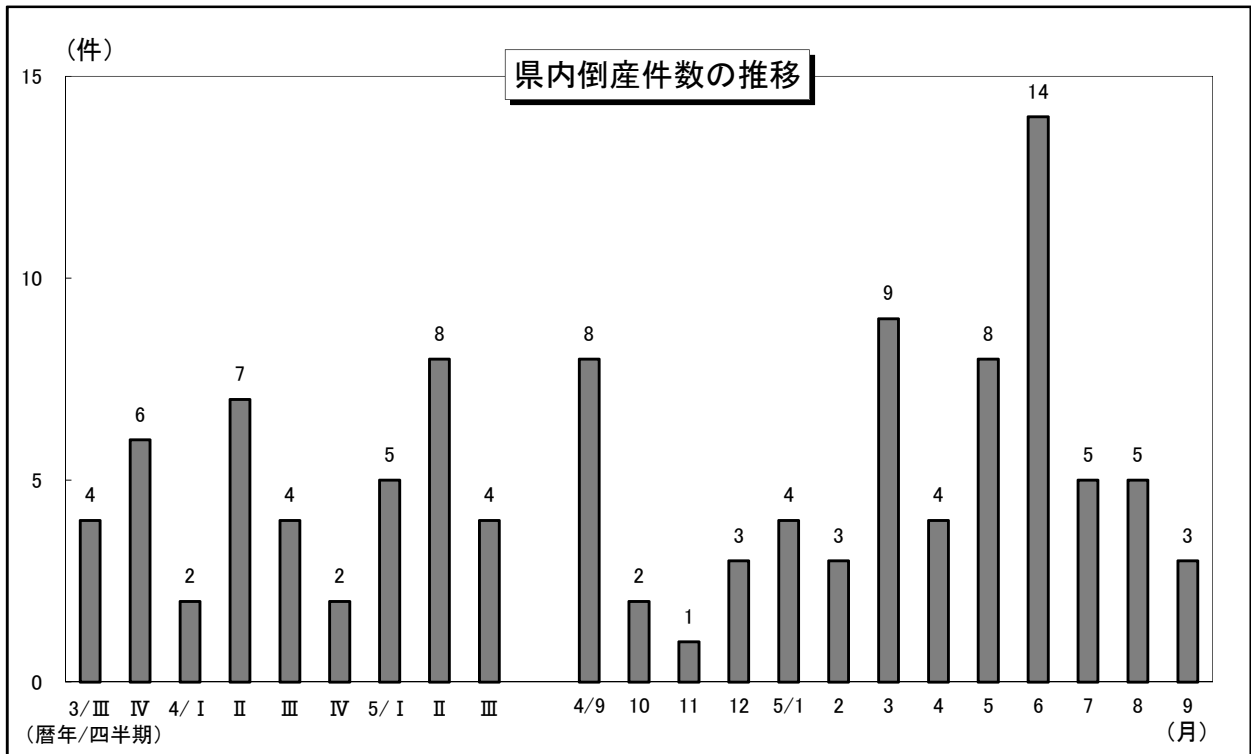
[資料:北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]



(注)四半期の棒グラフは月平均。

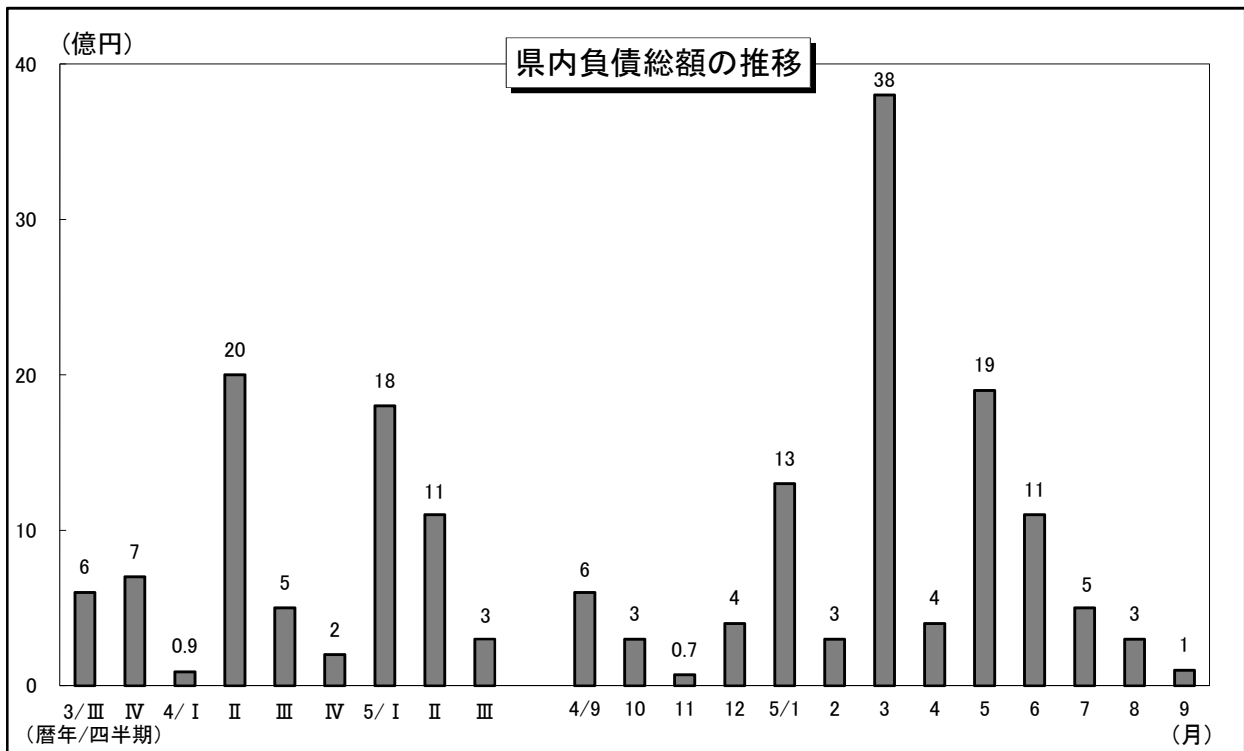
[資料:北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]

9. 倒産



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 東京商工リサーチ]



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 東京商工リサーチ]